



トランプ暗殺計画と株価

民主党からマイケル・ブルームバーグ(元ニューヨーク市長)が出馬することになった。これは軍産(Deep State)のトランプ暗殺宣言に等しい。

トランプは軍産と戦後の金融制度を主導してきたイスラエル左派の敵を装っているだけで実は忠実な軍産でありイスラエル資本の手下である。

トランプは、日本、韓国を含む全世界からの米軍撤退を宣言、さらには大統領選中 FRB(連邦準備理事会)を廃止するとまで言って正に現行勢力と真っ向から対立して見せている。

トランプは隠れ軍産、ユダヤ資本以外の何者でもない。

だからケネディのような言動をしても暗殺されなかったのである。

トランプは世界を煙に巻く為の単なるピエロ役だったが、化けの皮が剥げてきたので問題になっている。

軍産を地で行くブルームバーグ出馬は、トランプにとって雇い主からの大統領解雇宣言に等しい。

トランプはブルームバーグに勝てないことは分かっているから、やけくそになって暴れまわる可能性が高い。

せつかく収まりかけた米中貿易戦争も元の木阿弥になるだろう。

トランプ再選の為に FRB はバランスシート悪化を犠牲にして(利上げを断念して)緩和政策に逆転したが、次期大統領がブルームバーグに決まった以上最早トランプの言うことを聞く必要はない。

2019年3回の利上げと2018年末に発表していたにも関わらずトランプの為に利下げ、債券買入の量的緩和に踏み切ったが最早その必要は無くなったので早速バブル進行にストップをかけるだろう。

今後株価大調整のマグマが地上に現れて来る。

ブルームバーグ氏とは2005年氏が現職の市長時市庁舎でお会いしたが、市長室はなく職員と共に椅子を並べていた。

ニューヨーク市の小切手はよく不渡りになったが、ブルームバーグ市長は最高の格付を得るまで財政改革を断行した。

トランプは5回の倒産で不動産王になり、ブルームバーグは自らの努力で破綻状態の財政の健全化に成功した。

投資家、株主、債権者(銀行)を合法的に騙して得た天下は短命である。

私は2020年トランプ再選確実と述べてきたが、相手が同じ軍産支持のブルームバーグでは話の外だ。

急遽次回「小冊子」Vol.102の内容を変更して、ブルームバーグ大統領政権の合衆国新体制と世界について述べることにする。

増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

現在、増田俊男の「ここ一番！」をFAX又はe-mailにて配信しております。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel : 03-3956-8888、HP : www.chokugen.com まで。

【最近の配信履歴】

- 11月25日(月) No.937 外した梯子をまた戻した
- 11月21日(木) No.936 梯子が外された！
- 11月20日(水) No.935 梯子はまだ外されない
- 11月15日(金) No.934 梯子から降り始めた

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。